



OBIRAME 23

Newsletter Sept.2005



ヌプリの森水、できました



通水管を埋設する吉岡俊彦事務局長（左）と阿部英次会計。後ろで見守るのは草島清作会長。

「オビラメの会」の念願だったイトウ飼育専用水槽が完成し、8月20日、地元ニセコ町内で設置作業が行なわれました。

人工孵化させた尻別川産イトウ稚魚を次世代の親魚にまで育てるための施設で、地元メーカーに特注して製作されました。鮮やかなブルーに塗られた水槽は、FRP製で、幅5.5m、奥行き3m、高さ1mの大きさ。15トンの容量があります。

この日はあいにくの雨模様でしたが、草島清作会長以下約10人の会員が設置作業に参加しました。まず、樹木を傷つけないようにコンボを使って慎重に林間の地面を平らにならし、静かに水槽を設置。続いて、水槽から水源（地下水を引いた水道管本管）まで約10mの距離を、地面に掘った深さ50cmほどの溝で結び、新しい水道管（枝管）を埋設しました。本管に枝管を接続すると、冷涼な地下水が水

槽に勢いよく流れ込みました。

測定してみると、水量は毎分約100リットル。この清冽な地下水を「かけ流し」にする方式で、イトウたちを健康な状態で飼育することが出来ます。

新しい飼育水槽は、近くのニセコアンヌプリ（標高1308m）にちなんで、「ヌプリの森水（しんすい）」と名づけられました。北海道立水産孵化場で飼育されているイトウ稚魚たち（2003年5月生まれ）は、9月初旬には新しい「ヌプリの森水」に移送される予定です。

「オビラメの会」のイトウ飼育施設は、これで2か所になりました。見学のご相談はオビラメの会事務局（電話0136-44-2472、吉岡俊彦方）まで、お気軽にどうぞ。

（写真と文 平田剛士）

容量15トンの 稚魚育成用大水槽



2005年度通常総会報告

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」の2005年度通常総会が6月25日午後、ニセコ町民センターで開かれました。ダイジェストでご報告します。（イラストと文・平田剛士）

新役員に 藤盛聡さん就任



「ヌプリの森水」設置作業中の藤盛さん（左端）□

【会員数】 78名（2005年6月25日現在）

【役員】

代表	草島清作	虻田郡倶知安町
副代表（事務局長兼任）	吉岡俊彦	ニセコ町
事務局次長	高橋秀邦	倶知安町
理事	山本契	ニセコ町
理事	加藤清三	京極町
理事	玉井秀樹	大阪府高槻市
理事	藤盛聡	札幌市手稲区
会計	阿部英治	倶知安町
幹事（調査・研究）	末廣圭司郎	
幹事（調査・研究）	河野裕司	
幹事（調査・研究）	城座研一	
幹事（広報・宣伝）	平田剛士	
会計監査	竹内聖	
会計監査	山本契（理事兼任）	

前年度決算

収入の部（2004年6月1日～2005年5月31日） 単位：円

費目	内訳	金額
前期繰越金		1,867,904
会費（現金払い、寄付を含む）	28名分	59,000
会費（郵便振込、寄付を含む）	24名分	64,000
雑収入		1,522
小計		124,522
合計		1,992,426

支出の部（2004年6月1日～2005年5月31日） 単位：円

費目	内訳	金額
事業費	池管理および池使用料、餌代、ニュースレター発行費、ホームページ管理費、俱登山川調査費、稚魚放流、小学校への稚魚預託、採卵、採卵見学会など	687,431
会議費	総会、役員会、勉強会、ミニフォーラム（札幌）、イトウ保護フォーラム（厚岸）、江戸氏送別会など	241,771
通信費	インターネットサーバー、ニュースレター発送など	42,406
事務費	コピー代、その他	26,602
慶弔費	香典	10,000
小計		1,008,210
次期繰越金		984,216
合計		1,992,426

新年度事業計画

- 1 イトウ親魚と稚魚の飼育および人工繁殖事業
親魚飼育管理／生き餌の確保（春と秋）／稚魚分散飼育（飼育施設の新設工事）★／道立水産孵化場など関係機関との連携／そのほか
- 2 イトウ尻別川野生個体群再導入事業
再導入モデル河川における放流稚魚および環境モニタリング事業／モデル河川における自然環境復元事業（堰堤の改良工事準備など）★／モデル河川における稚魚棲息環境創出実験（北海道工業大学柳井研究室との共同作業）★／関係機関との協議、連絡調整など※／そのほか
- 3 オビラメ・ジュニア・プロジェクト★
児童・生徒およびその保護者・教師を対象にした会内ネットワークの構築。小中学校、高校そのほかの教育機関への講師派遣／そのほか
- 4 オビラメ保護フォーラム★
- 5 オビラメ勉強会（5～6回程度。このうち1回は札幌圏で開催）
- 6 広報事業
ニューズレター発行（年4回程度）／ホームページ更新／Tシャツ販売／リーフレット配布／自治体・学校等各団体への資料配付／各首長・議会への働きかけ／「しりべつリバーネット」などとの連携／そのほか
- 7 サポーター拡大事業
新規会員の獲得／既存会員の継続／助成団体等への援助申請／そのほか
- 8 イトウ保護連絡協議会への協力
- 9 そのほか

★印は新規

新年度予算

オビラメの会はみなさまのご支援に支えられています。
 ■年会費2,000円
 ■郵便振替02720-9-11016
 ■加入者名「オビラメの会」

収入の部 2005年6月1日～2006年5月31日 単位：円

費目	内訳	金額
前期繰越金		984,216
助成金	セブニーイレブンみどりの基金	1,513,795
	北海道新聞野生生物基金	500,000
	地球環境基金	1,500,000
	パタゴニア日本支社	400,000
会費	80名	160,000
合計		5,058,011

支出の部 2005年6月1日～2006年5月31日 単位：円

費目	内訳	金額
事業費	再導入事業、イトウ飼育管理、尻別川イトウ保護フォーラムなど。	3,913,795
	オビラメ・ジュニア・プロジェクト	120,000
会議費	オビラメ勉強会（5～6回）、オビラメミニフォーラム（札幌圏）	
	総会、イトウ保護連絡協議会（猿払）、交通費等	450,000
通信費	ニューズレター制作・発送費、インターネットサーバー、連絡用郵便費など	150,000
慶弔費		30,000
事務費	事務用品、コピー代金	120,000
予備費		200,000
次期繰越金		74,216
合計		5,058,011



OBIRME JUNIOR PROJECT

倶知安町立東小
ニセコ町立宮田小
ニセコ町立近藤小

……のみなさんが飼育したイトウ稚魚を放流

「オビラメ復活30年計画」にもとづく尻別川産イトウ稚魚の2回目の放流会が2005年6月25日、倶知安町内の尻別川支流倶登山（くどさん）川流域のモデル河川でおこなわれました。

昨年（2004年）秋に続く放流会です。前回同様、大光明（おおみや）宏武さんから「モニタリングチーム」の面々があらかじめ放流前の調査をおこなった場所に、合わせて約1700匹のイトウ稚魚を放流しました。

放流したのは、2004年5月に、「デカ」（雌）の卵と「チビ」（雄）の精子から人工的に孵化させた稚魚たちで、尻別川個体群の遺伝子をしっかり引き継いでいます。それまで北海道立水産孵化場（恵庭市）で飼育されていた個体のほか、札幌市豊平川さけ科学館（札幌市）と、地元の倶知安町立東小学校、ニセコ町立

宮田小学校、同近藤小学校で分散飼育していた稚魚たちもこの日、放流されました。

放流会には、各学校から飼育を担当した児童たち約30人が参加。稚魚を入れたバケツを手に、交代で険しい土手を川縁まで下り、流れの中にそっと魚たちを放しました（右の写真）。

稚魚たちは、次に捕まえたとき、いつどこで放流した魚かが分かるよう、標識代わりにヒレの一部をカットしてあります（右下の写真）。

2004年生まれのものら稚魚たちは、順調に成長すれば2008年ごろ、体長60cm以上の親魚になって同じ川に産卵のために戻ってきます。



Photos by Satoshi Adachi except left one by Tsuyoshi Hirata

イトウが学校にやってきた

巻礼子・ニセコ町立近藤小学校校長

4月20日、私たちの近藤小学校にも40匹のイトウがやってきました。初めは順調だったのですが、後半になって、一度に4匹が死んだりし始めて、子どもたちの飼育の方向も、ただ単に飼い続けるというのから、「どうして死んでしまうんだろう？」ということの追求に変わっていったんです。指導するわたしたち教師も含めて、原因は何だろう？ と一緒に考えることが出来ました。

いま、子どもたちの身の回りには、TVゲームなどがあふれていますが、バーチャルではなく、実際にイトウを飼ってみて、みんなで命を育てることを実体験して、いろんな芽が育ってきたな、と実感しています。これをきっかけに、今後、子どもたちの興味が広がっていくでしょう。こんなチャンスを与えてくださって、本当に感謝しています。（2005年6月25日、倶知安町立東小、ニセコ町立宮田小、同近藤小合同による「イトウ稚魚飼育体験発表会」=右上の写真=での挨拶から）

5

オビラメ活動報告会 in 札幌

2005年10月20日（木曜）

18時30分～20時30分

【会場】北海道環境サポートセンター多目的ホール
札幌市中央区北7西5の5 札幌千代田ビル1階

【入場料】無料

申し込み不要です。直接会場にお越しください。

【プログラム】（予定）

- ごあいさつ 草島清作（オビラメの会会長）
- 報告1「再導入イトウたちのゆくえを追う」
大光明宏武（酪農学園大学、オビラメの会モニタリングチーム）
- 報告2「生態系復元のためのダム改修実践例」
平田剛士（フリーランス記者、オビラメの会会員）
（10分休憩）
- パネルディスカッション
「どうつくる？ イトウがすすめる尻別川」

【お問い合わせ】オビラメの会事務局

電話／ファクス 0136-44-2472

電子メール PXN04427@nifty.com

淡水魚保全シンポジウム岐阜大会
『里川の魚たちの現状と保全：守るべき身近な水辺環境』

【日時】2005年11月18日（金）13時
～19日（土）正午

【会場】岐阜県大垣市情報工房

岐阜県大垣市小野4-35-10

【主催】岐阜県・淡水魚保全研究会

【定員】400名（先着順）

【参加料】無料

「オビラメの会」がポスター発表します。

第5回北海道イトウ保護

フォーラム2005 in さるふつ

『もう一度考えよう なぜイトウの保護が必要かを……』

【日時】2005年11月13日（日）9時30分

【会場】猿払村交流センター

第1部 「道北のイトウの現状」

第2部 パネルディスカッション

↑22号でお伝えした日程が変更になりました。イトウ保護連絡協議会総会は11月12日開催予定です。

2006年3月4日(土)開催決定 イトウ復活大会議「尻別イトウ」再生を目指して

【会場】ニセコ町民センター

【入場料】無料

【主催】尻別川の未来を考えるオビラメの会

【特別協賛】独立行政法人環境再生保全機構／地球環境基金

詳細は次号！

草島清作「尻別川の未来を考えるオビラメの会」会長のご令室咲子様が8月3日、ご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

尻別川の未来を考えるオビラメの会 役員一同

尻別川の未来を考えるオビラメの会は、会員のみなさまよりの会費と、寄付金およびセブニーイレブンみどりの基金、地球環境基金、パタゴニア日本支社、財団法人北海道新聞野生生物基金の助成金を受けて活動しています。

財団法人北海道新聞野生生物基金

patagonia
committed to the cause

セブニーイレブン
みどりの基金



オビラメの会ニューズレター 第23号（2005年9月発行）

OBIRAME Newsletter No.23 September 2005

- 発行■ 尻別川の未来を考える オビラメの会
- 編集■ 平田剛士
- 印刷■ クリエイト・M （北海道滝川市緑町5-3-5）
- 発送■ 吉岡俊彦
- 郵便振替■ 02720-9-11016 加入者名「オビラメの会」
- オビラメの会事務局■

北海道虻田郡ニセコ町富士見65「ライズ」内

吉岡俊彦方 〒048-1501 TEL/FAX 0136-44-2472

copyright 2001-2005 Obirame Restoration Group

<http://homepage3.nifty.com/huchen/Obirame/index.html>

水と空気、みどりの大自然

ニセコが好きだ

楽しんだあとは川を語ろう

御食事処・酒房

ライズ

ニセコ町富士見65 TEL/FAX 44-2472

Email / itou110@estate.ocn.ne.jp